

# 令和7年度第2回静岡県産業教育審議会

日 時 令和7年4月22日(火)  
午後2時から4時まで  
会 場 静岡県男女共同参画センター第3会議室

## 次 第

### 1 開会

### 2 あいさつ

静岡県教育委員会 教育部教育監

### 3 事務局説明

#### (1) 第1回会議録

#### (2) 全体説明

#### (3) 各部会説明（農業・水産・工業・商業・家庭・福祉）

「社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成」

### 4 議事

#### (1) 各部会説明に対する各委員からの意見（質疑含む）

#### (2) 全体的な質疑応答

#### (3) その他

### 5 閉会

## 静岡県産業教育審議会委員

任期：令和7年1月1日～令和8年12月31日（2年間）

(50音順 敬称略)

No.	氏名	役職	備考
1	飯倉 清太	特定非営利活動法人NPOサプライズ 代表理事	
2	上野 雄史	静岡県立大学経営情報学部経営情報学科 教授	
3	江頭 綾子	ヤマハ発動機株式会社 執行役員 ソリューション事業本部長	
4	奥田 都子	静岡県立大学短期大学部社会福祉学科 准教授	
5	川田 善正	静岡大学 電子工学研究所 教授	会長
6	岸田 裕之	静岡ガス株式会社 代表取締役 取締役会長	副会長
7	齋藤 寛	東海大学海洋学部 学部長	
8	新林 章輝	静岡県立静岡農業高等学校 校長	
9	豊田 由美	特定非営利活動法人スマイルベリー 施設長	
10	西村やす子	株式会社 CREAMFARM 代表取締役	
11	村木 則予	株式会社アトリオン 代表取締役	
12	横田 茂永	静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 学科長	オンライン

## 資料 2

## 令和 7 年度 第 2 回産業教育審議会 出席者名簿

## 専門高校代表校長（専門部会長）

所属	役職	氏名	部会名
県立田方農業高等学校長	校長	久保田 豊和	農業・水産部会
県立科学技術高等学校長	校長	大澤 貢	工業部会
県立静岡商業高等学校長	校長	松浦 真一郎	商業部会
県立富士宮東高等学校長	校長	鈴木 香	家庭・福祉部会
県立焼津水産高等学校長	校長	沼里 智彦	共通部会

## 教育委員会事務局

所属	役職	氏名	備考
教育委員会	教育部教育監	小野田 秀生	
	教育部参事	中山 雄二	
教育政策課	課長	白土 達夫	
教育DX推進課	課長	櫻井 澄人	
財務課	課長	上原 啓克	
教育施設課	課長	横田 恭子	
高校教育課	課長	中村 大輔	
	人事監	野田 正人	
	指導監	貝瀬 佳章	
	学校づくり推進室長	小粥 康之	
高校教育課学校づくり推進班	班長	大塚 晃司	
	教育主幹	河内 慶太	
	教育主査	渡邊 旬	
高校教育課指導第 2 班	班長	向中野 真記	
	教育主幹	片井 伴浩	
	教育主幹	平尾 順哉	
	教育主幹	山口 亮祐	
	教育主幹	朝比奈 玲子	

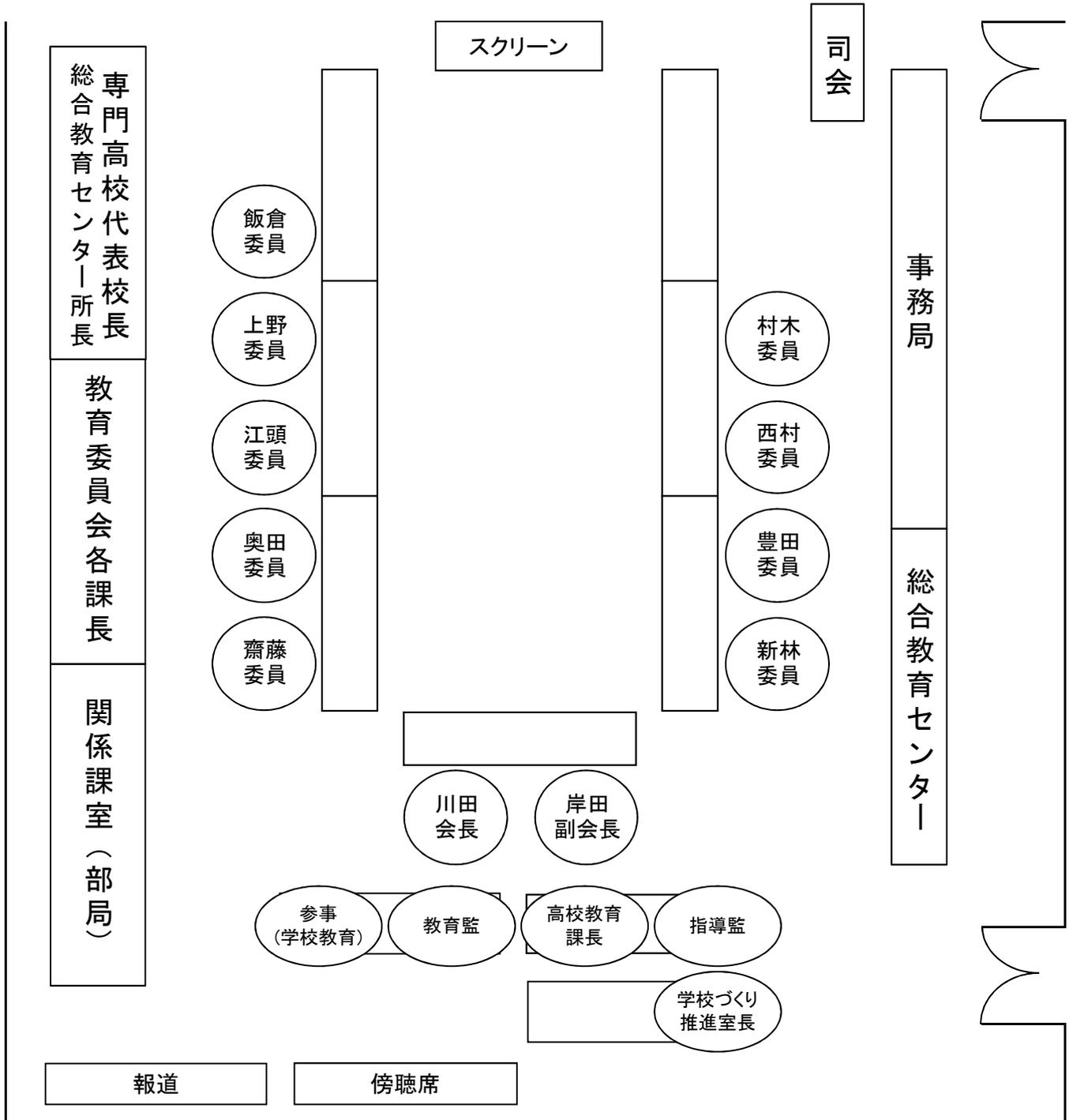
## 総合教育センター

所属	職名	氏名	備考
県総合教育センター	所長	持山 育央	
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	班長	鈴木 俊士	工業部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主幹	福岡 亜紀枝	家庭・福祉部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主査	杉山 暢啓	商業部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主査	山下 高充	農業・水産部会

### 令和7年度 第2回静岡県産業教育審議会 座席表

日時 令和7年4月22日(火)午後2時～4時

場所 静岡県男女共同参画センター第3会議室



## 静岡県産業教育審議会諮問事項等

## 1 諮問事項及び検討の視点

## (1) 諮問事項

専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方

## (2) 検討の視点

ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成

専門高校等においては、AIやIoT、ロボティクス等の技術革新やデジタル化に対応できる高度で実践的な知識や技術、地域産業への貢献意識、専門分野を越えた技術の融合を図れるゼネラリストとしての能力等を備えた次代の産業を担う人材を育成する必要がある。また、教員には最新の知識や技術の習得、地域との連携を深めるコーディネート力等が求められ、実践的な教育を保障するための施設や設備の整備も重要である。

イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成

ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

## 2 第1回審議会の共通提言

学校だけで全てに対応することは困難。外部リソースの活用。

産業界のスピードに対応した施設・設備の充実

実践的で「深い学び」の実現

小中学生などに指導する機会などのアウトプット

学校と外部リソースを有効的に活用するためのコーディネーター

高校段階でのデジタル人材の育成

課題を発見し解決していくための資質・能力の育成

リーダーシップ、コミュニケーションスキル、チャレンジ精神等の人間性の育成

学校と教育委員会だけでなく、関係部局と連携し静岡県全体の施策としての取組が重要

## 3 本日の審議の方向性

上記2の提言及び別紙1を参考に、10年後の未来を見据え「事務局説明資料」11ページから22ページの専門委員会からの提案について、

- 1 目指すべき姿にあげた人材を育成する方向性は妥当であるか
- 2 改善の方向性（具体的な方策）は妥当であるか

について御審議いただきたい。

また、次回の審議内容

- イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成
- ・ 地域産業の継承と創造
  - ・ 起業家精神と経営感覚の醸成
  - ・ グローバル化への対応（国内外）

を踏まえての御意見もいただきたい。

令和7年度

第2回静岡県産業教育審議会

## 事務局説明資料

1	令和6年度第1回静岡県産業教育審議会 会議録	1
2	静岡県産業教育審議会諮問事項等	10
3	静岡県産業教育審議会各専門部会 検討の視点「社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的 資質・能力の育成」	11
4	静岡県産業教育審議会開催計画（予定）	23
5	静岡県産業教育審議会各専門部会委員名簿	24

日 時 令和7年4月22日（火）  
午後2時から4時まで  
会 場 静岡県男女共同参画センター第3会議室

静岡県教育委員会

## 令和6年度第1回静岡県産業教育審議会 会議録

日時：令和7年1月22日（水）

午前10時から正午まで

場所：県庁別館9階第2特別会議室

## 1 教育長あいさつ

- ・委員への御就任御快諾に感謝申し上げます。
- ・本審議会は、産業教育振興法及びそれに基づく静岡県産業教育審議会条例の定めるところにより、産業教育の振興に関する総合計画の樹立、教育の内容やその方法の改善、施設・設備の整備と充実、教員・指導者の養成計画、産業界との協力促進等を通して、産業教育の振興を図ることを目的として設置するものである。
- ・本審議会は、「専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方」について審議をお願いするものである。
- ・専門高校等というと、商業、農業、工業、本県においては水産等があるが、「等」という言葉があるように、総合学科等における教育等も含めて、ぜひ御審議いただきたい。
- ・今日、産業界を取り巻く環境は、技術革新の進展により急速に変化をしている。特に、人工知能(AI)やビッグデータ、IoTの導入など、大きな変化の中で、労働市場は流動化し、雇用形態も多様化が進んでいる。このような変化に対応するためには、特定の知識や技能だけでなく、生涯学習の姿勢や新たな価値創造能力が求められる。リスキング等の言葉でも最近では一般にも広まっている概念かと思う。一方、少子化に伴う人口減少が進行する中で、将来の産業界を担う人材の育成が喫緊の課題となっている。本県においては、ここ2、3年、高校の在り方をめぐって、県内全域を視野に入れた基本計画の策定と並んで、旧学区単位で地域協議会を行っている。その地域協議会で、その地域の高校生たちの学びをどう考えていくか、本県産業界の担い手をどう育成するかということが皆様から問題提起されている。
- ・「静岡県立高等学校の在り方に関する基本計画」では、職業系専門学科では、「地域の産業界等と連携したカリキュラムの導入や学科改善等の推進」、また「プロフェッショナル人材の更なる活用」が目指す方向性として示されている。
- ・皆様には、こうしたことを踏まえて、広範多岐にわたる審議内容について御審議をお願いしたい。本年9月に中間まとめを行い、来年2月に答申をいただけるとありがたいと考えている。
- ・高校の在り方の全体像を示した基本計画、そして、現在進行中で各地区で進行している地域協議会、そして、産業教育の在り方について県内全域を貫くこの産業教育審議会。これらがいわば経系、緯系のようになって、静岡県の高校生たちの学びの未来を構築していくということになる。
- ・これからの時代に対応した産業教育について、委員の皆様それぞれの御専門のお立場、視点からの幅広く忌憚のない御意見、御提言をいただきたい。

## 2 会長・副会長の選任

(互選により、会長は川田善正氏、副会長は岸田裕之氏に決定した。)

## 3 趣旨説明(中村高校教育課長)

- ・諮問事項は「専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方」である。
- ・諮問理由は、社会が急速に変化する中で、職業に必要とされる知識・技術も絶え間なく変化し高度化している。生産年齢人口が減少していくこと、AIやロボットにより働く人の働く内容なども変わっていくような未来が予測されると思われる。また、それに伴って、働く人に求められる能力が、産業界の形態に合わせて変化していくことも考えられる。このような視点で、御議論いただきたい。
- ・本県においても、これらの変化に対応できるデジタル人材やスタートアップ人材、そして地域産業界を担う人材の確保が課題であるという認識に立っている。

・検討の視点を3つほど用意した。

視点の1つ目は、「社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成」である。AIやロボティクス、技術革新やデジタル化に対応できる人材、次世代の産業を担う人材を育成する必要がある。そのためにも、教員には、最新の知識や技術の習得、地域との連携を深めるコーディネート能力等が求められる。また、実践的な教育を保障するための施設や設備の整備も重要である。

・視点の2つ目は、「県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成」である。国際競争の激化と空洞化の進行、エネルギー制約等の強まりといったようなものもあり、先行きの不透明感が強くなっている。このような中では、起業家精神と経営感覚を併せ持ち、新産業の創出にも積極的に参画できるスタートアップ人材等の育成が必要である。

・3つ目の視点は、「これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備」である。少子化に伴う生徒数減少や小規模化により、教育の質の維持が困難になりつつある。生徒や地域のニーズを踏まえた学科やコースの新設・改善であったり、地域や産業界と連携した実践的な学習の充実、また学科間・学校間の連携であったり、相乗効果を生む学びの環境整備、県全体の配置バランスや学校の規模と配置の適正化が求められる。

・これらの3つの視点について、第2回審議会では、「社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資源の能力の育成」、第3回審議会では、「県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成」、そして第4回審議会では、「これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備」を御議論いただきたいと考えている。そして、9月に中間まとめをして答申案をまとめていただきたいと考えている。その後、12月と2月の2回で最終案の答申に仕上げていただきたいと考えている。

#### 4 議事1「各専門部会の設置」

##### ○事務局

・各専門部会の設置は、静岡県産業教育審議会会議規則第5条により静岡県産業教育審議会専門部会設置要綱を策定している。それに基づき、5つの専門部会を設置する。

#### 5 議事2「産業全般及び各専門学科等の現状と課題」

##### ○事務局

・本県の産業教育全般及び各専門学科等の現状と課題(農業・水産、工業、商業、家庭・福祉)について資料編に基づき説明した。

(大澤指導監及び各部会担当指導主事)

・資料8、資料9、資料編5ページから21ページについて、本県の高等学校における産業教育の現状と課題や総合学科における職業等に関する教育の取組状況、前回答申の具現化状況を資料により紹介した。

・資料10、資料編22ページから49ページについて、各専門学科等の現状と課題を説明した。

(説明者 農業・水産-平尾指導主事 工業-山口指導主事 商業-片井指導主事 家庭・福祉-朝比奈指導主事)

#### 6 議事3「各委員からの意見、検討事項」

##### ○飯倉委員

・生徒の数が減ってきているとともに、教員の数も減ってきており、教員の負担も増えていると感じている。

・現在、企業研修を一緒に行っている。企業が学校に行き行って講義をすることで、若手の育成につながるというウィンウィンな関係になっている。学校側のリソースもだんだん足りなくなっているため、外部がその部分を担

っていけばよいのではと思っている。専門性のところは皆さんいろいろリンクされていると思うが、それをより一層強化できれば、外部から専門的な講師を呼ぶこともできるのではと考えている。ただし、学校が講師を呼ぶのにかなり手間がかかるため、そのあたりが構築できれば更によいと思う。

- ・生徒がもっと学びを深めるためには、アウトプットして誰かに教えるという作業が大事だと思った。
- ・生徒アンケート調査で、「授業や部活動で学んだ知識や技術を活かして地域住民対象の体験講座等で指導をしたことがありますか」という問いに対して、現在、生徒の5%ぐらいが誰かに教えているという結果だった。その数値を10~15%に伸ばしていくことによって、その学習定着率がアクティブ・ラーニングになると思うので、そのようなことも目指していければ、全体的に底上げになっていき、結果どこに着地すればいいかというのも実現可能性があるのではないかと思った。

#### ○上野委員

- ・静岡県立大学経営情報学部で会計学を教えているため、商業目線での話を期待されているのではないかと考えている。
- ・直近の日本経済新聞(2025年1月19日「増えた大卒、職とミスマッチ」)でも報じられていたが、大学新卒者では、工場勤務などの生産過程・工程の建設で働く人が少ないと言われている。専門高校生も多様なキャリアパスの中で、大学に行くようになっていく。しかし、大学に行ったら、工場現場のブルーカラーの仕事はやらないという偏見もあるのではないかと考えている。そこは、かなり憂慮しているところである。最近の動向としては、スマート・ファクトリーだったり、随分工場のあり方が変わっている。スマート農業は農水省も推しているため、このようなことが1つ鍵になるのではないかと考えている。
- ・データサイエンス・人工知能というと、データサイエンティストというのが、AIと共同して作業を行う時代になっているので、こういったことも教育プログラムの中に含めていく必要がある。その中で、一番重要なところは、結局、専門化せざるを得ない産業教育という現実と、高校側のリソースとのギャップをどのように埋めていくのかということが、一番大きな焦点になる。さっき言ったことは最新の状況の話題になるので、高校側からいうと、絶対無理という意見が出てくるが、世界の動きとのギャップをどのように埋めていくかを考えなければならない。
- ・先ほどの飯倉委員の「深い学び」というのが1つキーワードになると思っている。学校の中でできるのは「深い学び」だと考えると、産学高大連携の中において、「深い学び」をどう実践していくのか。また「深い学び」について、機会があれば話をしたい。このような問題意識で、参画させてもらいたい。

#### ○江頭委員

- ・工業高校の取組で紹介があったが、「マイスター・ハイスクール事業」で、浜松城北工業高校と関わらせていただいて、教員を送っていろいろ取り組んできた。その事業の中での取組も、今後の審議会で紹介していきたい。
- ・今、共通して出てきているのが、DX人材の育成はどの産業分野でも必要である。
- ・日本はどんどん人が減ってきているので、人がやる部分と自動化していかなければならない部分というのは、どの産業でも必要になってきている。ただ、その課題そのものは、やはり私たちは、工場の現場の人間が課題認識して、人間ではない代替手段でどうやっていくのかという産業がやはり中心だと思う。DX人材といっても、なかなか専門知識の高い人。それはひょっとしたら大学に行って学ぶのかもしれない。でも、ロボットはロボットだけでは動かないので、それをどう使っていく、どう保全していく、どうやって広げていく、ということも考えられる人材をもっと作ることによって、人でやる部分とそうではない部分ができるのかなと常々思っている。そのような視点で、また次の世代、日本を支える人材をどう育てていくのかというところで皆さんと協議を進められればと思っている。

#### ○奥田委員

・介護福祉士の養成は高校でも行われている。介護現場では圧倒的に人材不足ということで、どうやって人を入れるかっていうのは課題である。介護現場というのは介護福祉士だけではなく、何の資格もない人も入れざるを得ないという状況で、今、新卒に限らず中高年の方々や退職した方々にも入っていただいている。そのような中で、介護福祉士にしかできない仕事というのがたくさんあるので、たとえ高卒で19歳であっても、介護福祉士という資格を持って入った人たちには職場からの期待が大きい。

・しかし、その一方で、大学を卒業して入ってきた人が、たくさんいる。そういう人たちに対してリーダーとしてどのように仕事をしていくかというのは非常に大きな課題である。リーダーシップの育成ということが、短大、大学を出た介護福祉士でも同様である。高校卒業で入っている若い人材にとって、かなり働きにくい部分は多々あるのではないかと考えている。そういう点で、せっかく高校で介護福祉士を取って入ったのに、すぐやめてしまうということで、これに対して何かサポートができないかっていうことは、介護福祉士の養成をしている高校の先生達からも伺っている。職場が新しい人材をどのように育成していくのか、人材育成のキャリアプログラム、そういったものに対しても、この審議会では何かのサポートができるような提言ができればと思っている。

#### ○川田委員

・本日高校の先生からいろんなことを御説明いただいて、私の印象としては、非常に上手くやられて、頑張ってもらわれて、生徒さんの満足度も90%を超えているというのは、すごいと感じた。生徒が自分の行きたいところに入学されているというのが非常にすごいというのが正直な印象で、皆さんの御尽力はすごいなと思った。

・最初の飯倉委員の話にもあったが、やはり先生方の負担ということもあるので、今後、外部の方とかいろいろなところで、高校生に企画したりとか、大学もやったりしているが、そういうところとうまく連携して、そういうチャンネルをどんどん広げていくというのは非常によいのではないかと考えた。

・どこの分野の方でも、IoTとかICTであるとかの話が出てきているので、学校間で、例えば商業と工業と一緒になにかをやってみるとか、そういう風な取り組みもいろいろあると、製品を作るだけではなく、そこを経営的にどう考えるのかといった話など、いろいろ見解が出てくるのではないかと考えた。

#### ○岸田委員

・話を聞く限りでは、やはりデジタル化やグローバル化、そしてDX化、そういうものを重ね合わせた複雑化の時代に入っていて、非常に不透明な時代にどのように教育をしていくのかという、そういう話が主だったのかなというように感じている。

・そういう点で、産業界から見ると、先ほど江頭委員からも話があったように、いろんな課題というのは現場にあるというのは当然だという風に思っている。その現場で、いかに疑問を持ってその作業ができるかということが、非常に重要になってくると思っている。そのためにも明るい未来を創造できるような方がいないと、なかなかそういうことができないと思うので、そのためにはどういう人材を育てていくかというように思っている。

・専門高校ですので、専門的知識というのが非常に重要だと思うが、それだけでは実は疑問を持てる人材はなかなか難しいのではないかと。やはり専門的知識プラスアルファのものをいかに育てていくかというのが、我々産業界としては求めたいと思っている。そこさえできれば、技術的な面は当然日々変わるが、産官学や大学との連携とか、そういうところもできてくるのではないかと考えている。そういう点をお願いをしたい。

#### ○齋藤委員

・大学の立場というところもありますので、先ほど上野委員の話もありましたけど、高校と大学の違いは一体何なのかということで、我々が、学生を集める時に、高校卒業と大学卒業では給料が違うということを言ってしまう。

そこに大学としての魅力がある。4年間の違いって何かって言うことだと思いますけども、これはある意味、受け入れていただける企業様側の対応もあるのかと思う。

・その一方で、実は専門高校を出てきた生徒さんについては、知識はやはり持っている。従いまして、我々のところでも、例えば水産に関することをやるが、水産高校を出てきた学生は、「高校でもやりました」「もうわかります」ということでやめてしまう子もいる。そういう意味では、その専門的な知識というのは、実は高校と大学そんなに変わらないのではないかという気がしている。

・我々大学としても、問題発見解決型ということを意識している。先ほどの福祉の説明のところで、福祉人材と高い志という言葉があったが、これはすなわち人間教育ではないかと思う。高校も大学も、その人間教育というところがどれだけできるか、そのプラスアルファで専門的な知識ということに繋がっていくと思う。

・これからますます少子化ということが問題になり、先ほどの教育長の話でも、中学生が減っています。中学生が減ってくということは、その3年後、高校生が減ってく。それはつまり大学に来る学生が減ってしまうということ。これは大きな問題なので、高校とか大学とかではなくて、やはり一緒になって考えていかなければならないと思っている。高校の問題が解決できれば、我々大学としても解決できるのではないかと考えている。ぜひ御一緒に検討して、考えて、我々にも繋がることになっていければと思っている。

#### ○豊田委員

・普段は障害者の就労支援施設で施設長をやっている。主に障害を持った18歳以上の人たちの就労現場でのサポートをしている。なので、福祉の現場であったり、うちの会社は自然栽培といって、農薬・除草剤を使わない農業を行っているところもあり、農業分野のところも少し関連してくるのかなと思っている。

・実際現場にいて、スタッフや若い方を見ていて思うのは、課題を見つけて解決する力というのが結構20代の方が少なく、全部聞いてきたりとか、こちらから指示出ししないと動けない方が多いと感じている。学生時代どういう経験してきたかなと疑問に思うところもある。

・学校の中で総合学習とか専門性の高い学習をしてきたと思うが、現場に行っても実際に動くことができない方が多くて、何が違うんだろうと思った時に、やはり経験だと思った。学校内で体験することも非常に重要だと思うが、外に出て経験する力も身に付けていくと、専門性であったり、考える力であったり、スキルアップしていけるのかなと思った。

・私たちは農業をやっていて、出口というところが非常に苦しんでいて、一般でも農商工連携で製品が出てたり、支援策もいっぱいある。今後、静岡県にはいろんな専門分野があるので、高校の農商工連携みたいなことを、地域とか学校内ではなくて、そこを超えて静岡県全体で農商工連携で、商品開発であったりとか、窓口の政策だったりとか、我々一般企業とかが支援していくような形が取れると、今言っているような色々な課題のところ少し繋がるのではないかと感じた。

#### ○西村委員

・今、転職市場は活況である。現職場では自身の成長が見込めない、あるいは自分を探し転職している。社会に出て実際に仕事してみないと、自分の適性が何なのか、どんな業務に向いているのかわからない。必要な学びは学校だけでなくグローバルで学べる環境がネット上にできている。人生100年時代は、学生から社会人へ、転職や起業、定年後の3ステージ働くと言われている。生徒の指導に尽力されるこの会議場にいらっしゃる方々でさえ、定年退職以降とか60歳以降は、どういうキャリア作っていくのか、考えて準備する必要がある時代になっている。「何のために働くのか」「何のために生きていくのか」といった、思想・哲学的な部分が生徒にとっては大事ではないかと感じている。

・実際社会に出ているような現場を体験してみないと適性はわからない。リアルで人間関係を作るとか、感謝の

気持ちを周囲に持つとか、たとえ失敗しても、何回でも人生というのはチャレンジできるといった思考を、早い段階で身につけてもらいたい。

・各論のところによると、農業関係の取組は素晴らしいと思って聞いていた。ただし、一括りで「農業」といっても生産技術と、ICTとかスマート農業など生産効率を上げていくことと、六次産業化による加工品の企画開発やマーケティング・クリエイティブの部分が混在しそれぞれ違った適正が求められる。様々な体験を通して、自分が好きなこと、夢中になってやれたことは何なのか、自覚できるような教育が必要だ。

#### ○村木委員

・中小企業診断士ベースの民間のコンサルティング会社をやっており、中小企業の支援、それから創業者、スタートアップの支援をやっている。

・そういう中で、どういう人がスタートアップで、どういう人が成功するかを見ていくと、テクニカルな知識やマーケティングの知識はもちろん必要だが、やはり一番大切なのは、なんでその仕事を自分がやるのかということをよく理解して、何度失敗しても繰り返してそれを追求する心みたいな、動機付けの部分がしっかりしている人たちが最終的には成功するのかなという気持ちを持っている。

・今回この資料をいただいた時に、ざっと拝見して、素晴らしい資料だなと思った。しかし、読みながらだんだん苦しくなってくるころがあった。県の側からの期待がすごく大きいのがわかる反面、その当事者はどうなんだろうというように思った。彼らのモチベーション、なぜその専門高校を選んだかということ、多くは満足していると答えているが、本当に彼らその道を選んだ動機というものがクリアになっているのか、深掘りしているのか。あるいは、もっと動機を培っていくというようなことが教育の中でされているのかということ、どうなのかなと少し思ったころがあった。

・教育に満足しているという方たちが100パーセント近くあるというのは、裏を返せば、その課題意識が薄いということかもしれないという気もした。そのため、高校生たちの実態を知ってみたい、本当はどう思っていて、どうしたいのかということを知りたい気持ちがある。

#### ○望月委員

・前回、前々回もこの答申に関わっていた。時代の変化に対応するということではほとんど変わりはなく、前回も、ICTの活用、起業家精神という話も上がる中で、どこまで実現化できたかということも反省しながら、今この場に出席している。ただ、前回と違うのは、よりスピード感が増している。デジタル化は、学校現場では、この5年ぐらいで、加速度的というよりも、驚異的なスピードで進んでいる。タブレットも、子供たちは先生よりも進んでいる。そのような状況の中で、今どうあるべきかということ、企業の皆さんと相談して答申に向けて協議していきたいと思っている。

・学校現場の苦しみというのは、飯倉委員の話にもあったが、その負担感というのはかなり大きい。生徒減に伴う負担感であるとか、教員もそれによって減っていく。また予算面もかなり財政としては厳しい中で、施設・設備も老朽化する。新しいものもなかなか入らない中で、魅力化というところを前面に出しながら専門高校としては取り組んでいる。

・時代にあった教育ということで、一番喫緊で課題なのは、教える先生方の、団塊の世代が抜けた後で、専門性を持っている教員が、本当に少なくなってしまうと、そこが担保しきれない。外部に人材を求めて、企業連携というのも、かなり進んできている。それもだいぶ定着してきているところだが、そこも負担感ではある。しかし、そのような取組や連携が、子供たちをより育成していると感じている。自ら連携を取るために進んで動く子もいるし、教員主体で動く子もいるが、そのようなところで子供たちは魅力を感じているということもひとつある。

・資質・能力の育成というところを、子供たちに身に付けさせるために取り組んでいる。専門性というところだけ

ではなく、資質・能力というところに、最近ポイントは置いていると思っている。

・ある大学では、推薦で入学した農業、工業、商業学科の生徒と、一般入試の子と比較すると、やっぱり推薦入試の子は専門高校なので学力的には少し低いけども、2、3年になるとそういう子たちの方が活動的で、頑張ってくれている。それはなぜなのかということを大学の先生が言うには、実験、実習などに多く取り組むことで、チーム力やコミュニケーション能力が身に付いているのではないかと。段取りなども、実験、実習で大事どころだし、何をやればいいのか自分から仕事を探すということもできているのではないかと。いった話を聞くと、専門高校のあり方というのはそもそも何なのか。普通高校という言い方自体に違和感があり、ある校長先生が、「普通高校の普通って何なのか」と言っていた。「専門高校は普通ではないのかな」という言い方をされると、専門高校という位置付けを上げていく、そういう取り組みも必要なのではないかなと感じている。

#### ○横田委員

・本学は日本で最初の農業の専門職大学ということで、4大と短期大学部を設置している。専門職大学ということで、職業人を育成するということで、大きくかぶるところがあって、まさにうちの大学の課題でもあると思っている。

・特に情報面や施設面は、うちでも喫緊の課題となっているが、県の中にあるということもあり、予算面が厳しいということもある。先ほど高校間でも連携という話をされていたが、県内、もう少し広い目で、連携していただき、うちの大学も含めて、情報というものを考え、ICTの整備を進めていただくということを可能であればやっていただきたい。

・今、GIGAスクールとかいろいろあって、クロームブックやiPadを、中・高校で使っているが、大学に入るとWindowsということで、これも実は喫緊の課題になっている。多分、次の4月に入ってくる学生さんは、クロームブックに慣れている中で、Windowsのパソコンを買わせて、またやらせるということが、学生の経済的な事情もあって、どうしようかと検討しているところである。そういう意味で言うと、縦方向の連携というのも必要であり、これも検討課題に入れていただければと思う。

・農業・水産、商業、工業、家庭・福祉それぞれの見方もあるが、今、農福連携や、一般企業の農業参入などが進められているということで、農業においても工業や商業、他の産業との間の連携も随分出ている。うちの学内でも縦割り構造から抜け出せないところであるが、専門をやりながらも、他の専門との関わり、これを重視していくというのは、何らかの形で取り入れた方がいいのかなと感じた。

・情報と同時に、今、環境とか経営というのも専門を超えて、どの分野でも重視されているところかと思う。これをどうやって取り入れていくのかということも議論できればと思っている。

## 7 質疑

#### ○村木委員

・現在、各教科で取り組まれていることが、今回提示されている各教科の課題に、現状どこまで課題解決に貢献しているのか、何が足りないのかを教えていただくと、これからの審議の資料の材料になるのではないかなと思った。

#### ○事務局(大澤指導監)

・各教科で紹介したように、いろいろな取組はやっているが、全ての生徒がそのような取組に参加をしているわけではないということが課題だと思っている。何でも積極的に取り組む生徒ばかりではない。イベントの開催時に、同じ生徒が毎回参加するということもよくある。積極的に取り組む生徒を増やすことが課題だと感じている。

・施設・設備の面では、学校でこういうことをやりたいと思った時に、それに対応できるような最新の施設・設備が、学校には備わっていないことも課題だと感じている。

○村木委員

・先ほどのアンケート調査の結果で、「高校入学後、外部（地域、企業、行政、大学等）の方との取組に参加したことがありますか。」という設問に対して、半分ぐらいの生徒しか参加していないということであるが、なぜ参加しないのかということをもし聞くことができれば、これらの取組のどこに障害があるのかという解決の道筋が見つかるのではないかと思った。

○事務局（大澤指導監）

・御紹介したアンケート調査は、本日の第1回審議会の基礎データとして、まず調査をしたものである。これ以上の深掘りしたものは、今後実施をすべきと思っている。

○岸田委員

・（資料編 資料4）検討の視点のア「社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成」という中の、「教員には最新の知識や技術の習得、地域との連携を深めるコーディネート力等が求められ」という部分について、「教員には最新の知識や技術の習得」は当然であり、お願いしたいことである。しかし、「地域との連携を深めるコーディネート力が求められる」という部分について、当然そういうことも必要であるが、地域との連携を深めていくための基礎的なものは、教員に任せるのではなく、組織として作っていくことが必要ではないかと考える。その上で、細かいところを教員の方はやっていくことはあると思うが、ベースとなることはもう少し上のところでしっかり連携を取っていくということが必要なような気がしている。あまりにも教員の方にいろんなことを押しつけていくと、大変なのではないかと感じた。

○飯倉委員

・先ほど望月委員がお話していたが、民間と学校との連携が最近進んでいると思う。企業も負担感が大きくなってきているところはあると思うが、それはその企業が高校の授業を行っている人間に対して何を求めているかによって多分変わってくると思う。ただの協力なのか、人材育成なのか。授業を行うためには、自分の会社を知らないといけない。そのため若手を導入して、1年目、2年目だと少し厳しいが、3年目など自社だけで研修ができる会社だけではないので、まとまって研修を行うなどの方法がある。実際、自分が知っているところで、農業高校に講師として行きたいという企業がたくさんある。ただ、レギュレーションを入れないとなかなか危ないところもあると思う。例えば、静岡鉄道などの5社研修などは静岡ガス等と連携しており、企業の若手が学校へ行き講義をするというのもあるが、非常に成長してきている。お互いに必要としているもの、マイナスとマイナスを足してプラスにする効果を生み出すことができればと思っている。また高校生がそれを元に、中学生に教えるなど自分より若い子に教えていくというスキームが1つ必要なのかなと思う。

・大学生もそうだと思うが、短期的なものの中長期的なもの、潜在的なもの顕在的なものを分けながら、みんなが困っているところを足していくと、実は解決できることがあるので、そのあたりを探ればいいと思う。

・専門職は、特に企業は専門でやっていることが多いので、専門の方に来ていただいて御講義をいただくということが一つ先生たちの負担も軽減できるのではないかと思う。自分がわからないことを教えるということは大変なことなので、そのあたりの補いを設計していくのは大切なことだと思うし、静岡県の人材を育成するために全部がまとまってやらなければならない問題だと思うので、企業と学校が連携するべきかなと感じた。

○上野委員

・すごく重要な指摘だと感じる。その上で重要なのはコーディネーターの存在になる。最近は大学でもそうした依頼を受けることがある。大変すばらしい試みであると理解した上で発言すると、高校側の依頼で出張講義を行った際に、ほとんど内容を丸投げされてきて、当日にならないと学生の雰囲気や状況がわからないとか、直前になって突然いろいろな要求をされたり、などの事案に遭遇する。教員サイドが多忙で調整できないケースもあるように感じる。専門のコーディネーターの必要性を感じる人が多い。

・コーディネーターの必要性についてどこかに盛り込めたらと思っている。

#### ○望月委員

・今いただいた御意見はありがたい。コーディネートをするというのは、教員にとってもかなりハードルも高い。もちろん産業教育も必要であるが、これ以外の外部からのいろいろな〇〇出前講座などの声もあって、毎週何かしらの行事が入っている。そういったことを住み分けているうちに、例えばそういうことに長けている教員のところには二重、三重、四重に仕事に関わってくるので、それをまたコーディネートを校内で誰かにということもなかなか難しい。そのため、県単位というのも難しいとは思いますが、コーディネーター配置みたいなことができればと思う。小学校とか中学校でもコミュニティースクールのコーディネーターをつけたりするので、同じことで、なかなかそれが難しく、それに長けた人がやってもらえるのがありがたいと、現場としては感じている。

#### ○川田委員

・講演会とかそういう時に、講演される方が高校生相手に伝えるので、こういう方になりたいなっていう方がうまく応援してくれると非常にいい効果があるのではないかと考える。

・憧れるというか、夢があるような話というか、こういう人に憧れましたという方が講演されるといいのではないかと思った。

## 8 閉会

#### ○事務局

・今日いただいた御意見については、事務局の方で整理して、専門部会等で協議し、審議会の方に取り上げていきたいと思っている。

・今後、第2回目の日程は4月中の開催を予定している。また、改めて日程等の御都合について、連絡をさせていただきたい。

令和6・7年度審議会 「専門高校等におけるこれからの時代の対応した産業教育の在り方」		
審議内容	検討の視点	具体的な方策例
ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成	(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門性の高い外部人材・施設における高度な知識・技術を学ぶ機会の充実</li> <li>○デジタル化、スマート化等に対応した学習内容の充実 (例) 大学、企業等と連携した教育システムの構築、特別教諭の増員、企業とのエコシステム等の構築、AIやIoT等の先端技術への対応 等</li> </ul>
	(2) 教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員に必要な知識・技術等及び教科指導力の向上 (例) コーディネーターや実務家教員の拠点校配置及び近隣校での巡回授業・教員研修 企業・職業訓練施設等と連携した教員研修の充実 等</li> </ul>
	(3) 施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心安全な実習施設の整備 (例) 老朽化対策、空調設備、HACCP・GAP対応 等</li> <li>○学びの保障、技術・技能の高度化等を図るための設備の整備、企業施設との乖離解消 (例) スマート化、DX化、高性能PC 等</li> </ul>
イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成	(1) 地域産業の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県プロジェクトと連携した次代を担うイノベーターの育成 (例) AOI、MaOI、フォトンバレーセンター等における生徒の研究活動支援 地域産業への理解・体験事業、他分野との連携による新技術の開発 等</li> </ul>
	(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題発見力、主体的・協働的な解決能力、マーケティング能力の育成</li> <li>○幅広く社会、経済、産業を見る能力の育成 (例) アントレプレナーシップ教育、スタートアップ教育、データサイエンス 等</li> </ul>
	(3) グローバル化への対応 (国内外)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○諸外国との交流推進と外国語によるコミュニケーション能力の向上 (例) 教員や生徒の海外派遣事業の実施、海外での活躍経験を持つ技術者による講話 ポルトガル語等のコミュニケーション機会、外国人学校との交流 等</li> </ul>
ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備	(1) 魅力的な専門学科等の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の成長産業、スマート化、DXやグローバル化に対応した教育カリキュラム (例) ロボティクス科、未来エネルギー科、マリンバイオ科、バカロレアCP 等</li> <li>○学科間・学校間の横のつながりによる学びの拡充 (例) 理数科と工業科、工業科と商業科、商業科と農業科 等</li> </ul>
	(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少子化における生徒の分散化改善のための専門高校等の整備 (例) オンラインとオフラインを活用したハイブリット教育 等</li> <li>○カリキュラムや地域バランスを踏まえた学科等の配置（地域の課題を踏まえ） (例) 小規模校適正化のための再編、普通科との併置、専門高校単位制 等</li> </ul>

# 1 農業教育の課題及び改善の方向性

## 目指すべき姿

- 農作物の生育情報や気象等の環境データや、消費者ニーズ等のビックデータをAIによって入手・分析し、農業経営に生かせる人材
- AIや農業用ロボット、ドローン等の先端技術を活用し、農作業における省力化・軽労化を進める事ができる人材
- 国内外に関係なく、グローバルな視点で農業展開を創造できる人材
- スマート農業教育の実践に必要な教員の資質向上と人材の確保

## (1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ IoTやAIを活用したスマート農業で必要となる実践的なスキルの育成を重視したカリキュラムの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スマート農業を意識した学習の充実を図る。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICTを活用した実験実習の充実</li> <li>・ 科目「農業と環境」等において、センシング機器※<sub>1</sub>を活用したデータに基づいた栽培について学び、科目「農業と情報」等においてデータの分析・活用について学ぶ。</li> </ul> </li> <li>○ 情報活用能力の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル化視点でのカリキュラム・マネジメント※<sub>2</sub>を実施する。</li> <li>・ ICTを効果的に活用した探究的な学習の推進。</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業技術の進展や外的要因の急激な変化等で、農業人に求められる専門的資質・能力への迅速な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ GAP※<sub>3</sub>に基づいた農業学習を実践する。</li> <li>・ 食品安全、環境保全、労働環境等の生産工程管理に関する学習の推進。</li> <li>○ 農業技術の進歩や高度化、複雑化する知識・技術に対応した人材の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最先端技術に触れる機会の充実</li> <li>・ 産学官との連携を推進し、現場見学や実習、外部講師の招聘などを行う。</li> </ul> </li> </ul>

## (2) 教員の資質向上

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<p>○ 教員間における専門的な技術の継承と、スマート農業等で必要となる先端的な知識や技術の習得</p>	<p>○ スマート農業に関する授業事例の蓄積・共有化</p> <p>・ スマート農業実践・実習指導や栽培技術等をマニュアル化、データ化する</p> <p>○ 先駆的な取組の視察や、農業経営現場での実践的な研修機会の充実</p> <p>・ 産学官連携コーディネーター（仮称）の配置</p> <p>・ 関係情報を集積させたデータバンクの創出</p> <p>○ 技術の伝承や支援等の充実</p> <p>・ 特別免許状の活用も含めた外部人材の活用促進</p> <p>・ 農業教育研究会等の研修会の機会充実</p>

## (3) 施設・設備の整備

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<p>○ 施設・設備等の更新（農産業の即戦力の育成に必要な、先端農業法人と同等程度の施設・設備の充実）</p>	<p>○ 実験・実習の施設、設備の更新、改善</p> <p>・ 最先端の農業技術や新たなビジネス展開等の変化や地域農業の方向性や、学校の学科改編、職員数の減少等の変化の動向を把握し、より効果的な施設・設備を取捨選択し、導入する。</p> <p>○ 地域との施設・設備の共有・共同利用</p> <p>・ 地域の農業法人や研究機関等と共同で利用するシステムの構築</p> <p>・ 高度で発展的な共同研究等を進め生徒、教員と企業人材が共にイノベーターとなる。</p>

※ 1 温度センサーや湿度センサー、水分センサーなどがあり、農業現場の環境データを収集する役割

※ 2 教育目標の実現に向けて、教育課程の編成・実施・評価・改善を計画的に行うこと

※ 3 農業の生産工程管理。食品の安全性向上、環境保全、労働安全の確保、人権保護、農場経営の改善や効率化。

## 2 水産教育の課題及び改善の方向性

目指すべき姿	
○	水産資源の枯渇や生態系の変化に対応した「持続可能な漁業」の実現に向けた水産資源の保全活動に取り組む事のできる人材。
○	漁業従事者の高齢化と担い手不足に対応する、スマート水産業※ <sub>1</sub> に必要な技術革新の推進
○	労働環境の待遇改善を進め、水産業や地域社会に貢献し持続的な発展を担う人材の育成と確保
○	スマート水産教育の実践に必要な教員の資質向上と人材育成と確保

### (1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
○ ICT技術を取り入れたスマート水産業に必要な知識・技術の習得に必要なカリキュラムの検討と再構築	○ スマート水産業に必要な知識や技術に関する学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先端技術に対応した教材等を活用したカリキュラムマネジメント※<sub>2</sub>の推進</li> <li>・ AIやIoT、デジタル化に対応した学校設定科目の実施</li> </ul>
○ ICTやAI、ロボット技術などの先端技術に触れる機会の設定	○ 持続可能な水産業に関する学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水産業の安定的な経営に関する学習の充実</li> <li>・ 陸上養殖や育種、海業※<sub>3</sub>等、高付加価値化に対応した教育の実現</li> </ul>

## (2) 教員の資質向上

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先端技術を持つ企業や大学等との連携や、スマート水産業に関連した教員の研修や交流等の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員研修の充実を図り、教員の専門力向上を図る               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学、企業・職業訓練施設等との連携強化</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員間における専門的な知識・技術の継承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実験・実習や栽培技術等のマニュアル化・データ化を進める。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業実践事例の蓄積・共有化</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水産教員の高齢化やなり手不足の解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水産教員の育成と人材確保               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人向けの「特別免許状<sup>※4</sup>」の活用促進</li> <li>・ 大学等において、教職の魅力をアピールする機会の拡充</li> </ul> </li> </ul>

## (3) 施設・設備の整備

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先進的な水産企業等と学校の施設・設備の乖離の解消（施設・設備の更新）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次世代の水産業の動向を踏まえた施設・設備の更新               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の「安全・安心」を担保できる施設・設備の早急な更新、改善</li> <li>・ 実社会に即した最新の閉鎖循環式養殖施設<sup>※5</sup>等の施設・設備の充実</li> </ul> </li> <li>○ 地域水産業等との施設・設備の共同利用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の水産法人や研究機関等と、施設・整備を共同利用するシステムの構築</li> </ul> </li> </ul>

※1 ICT等の先端技術を活用した次世代の水産業

※2 教育目標の実現に向けて、教育課程の編成・実施・評価・改善を計画的に行うこと

※3 海や漁村の地域資源を活用した事業や取り組みの総称

※4 教員免許状を持たない社会人を教師として登用するために授与される免許状

※5 陸上の閉鎖空間で水を循環させることにより、魚や貝等の水産物を養殖する方法

### 3 工業教育の課題及び改善の方向性

目指すべき姿	
○	デジタルリテラシーを兼ね備え、個別の技術を相互に関連付けて、変化する状況や課題に柔軟に対応できる人材
○	AI やロボティクス等の技術を活用し、合理的かつ創造的で付加価値の高いものづくりに貢献できる人材
○	工業技術が現代社会で果たす意義と役割を深く理解し、責任を持って協働的に取り組みよりよい地域社会の発展を担う人材

#### (1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
○ 高付加価値の製品や構造物などに 関連付ける学びの推進	○ ものづくりを製品の視点から捉えた持続的経営感覚の醸成 ・ 課題研究を中心に探究の過程を通して学ぶ授業、STEAM 教育※ <sub>1</sub> 、課題解決学習（PBL） ※ <sub>2</sub> の実践強化 ・ GX※ <sub>3</sub> を意識した学習の充実
○ 具体的なものづくりと結びつくキ ャリア教育の推進	○ 静岡県の産業構造や地域特性を活かした産業集積の理解促進 ・ 地域産業※ <sub>4</sub> とのコラボレーション授業等を可能とする弾力的なカリキュラム設定
○ 教育 DX の推進、AI の進展を前提 としたデジタル人材の育成	○ IoT、AI、ロボティクス、DX、GX 等の先端的技術に触れる機会の拡充 ・ 企業、知事部局、工業関連団体、工業技術研究所、大学、工科短期大学校等との連携 推進の強化 ・ デュアルシステム※ <sub>5</sub> やインターンシップなどの充実

## (2) 教員の資質向上

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
○ 新しい技術に対応した実習、技術習得に特化した研修の充実	○ OFF-JT で技術を体系的に学ぶ環境づくり ・ 民間企業等長期派遣研修、大学派遣等の実践的な研修機会の拡充
○ ものづくり技術の伝承	○ ものづくり技術を磨く機会の確保 ・ 各種競技大会等の継続 ・ 外部人材を積極的に活用した教員への技術伝承や競技運営への参画 ・ 社会人の特別教諭を県内の東・中・西部の各地域に配置するための増員
○ 生徒の論理的思考力や課題解決力の向上に資する効果的な ICT 活用	○ すべての教員を対象にプログラミング指導力向上のための研修機会の確保

## (3) 施設・設備の整備

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
○ 老朽化した産業教育設備の更新、企業施設との乖離解消	○ ものづくり産業の実情に沿った学習環境の整備 ・ 急速なデジタル化に伴う進化に対応するスピード感を持った更新周期への移行 ・ 長期にわたる安定的な財政措置 ・ 自校・自科の施設・設備を他校・他科に開放・貸出等、相互に探究的な学びを充実させる仕組みづくり ○ 近隣企業で使用している最新鋭の機器を貸出・展示、生徒が触れる機会を設ける枠組みの整備
○ デジタル人材育成ができる産業教育設備の整備の充実	○ クラウド環境や生成 AI の活用等を意識した情報・産業機器の整備

※1 STEAM (Science, Technology, Engineering, LiberalArts, Mathematics) の略。イノベーションを生み出せる人材を増やすことを目的にした従来の科学技術教育、理数教育を統合・体系化した教育。

※2 PBL (Project Based Learning) 問題解決学習の略。

※3 GX (Green Transformation) の略。化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動。

※4 光関連、半導体、次世代モビリティ、食品、ヘルスケア、医療健康、CNF<sup>※6</sup>等

※5 企業での実習と学校での授業等の教育を組み合わせて実施することによる職業人材育成の仕組み。

※6 CNF (Cellulose Nano Fiber) の略。植物由来の次世代素材。木材から科学的・機械的処理により取り出されたナノサイズの繊維状物質。軽さ、強度、耐膨張性など様々な点で、環境負荷が少なく、既に自動車、家電、住宅・建材などに活用され、また普及が期待されている。

#### 4 商業教育の課題及び改善の方向性

目指すべき姿	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 膨大な情報の中から必要な情報を取捨選択し正確に理解することができる人材</li> <li>○ AI やアルゴリズムによる判断に対して批判的に検証し自分の意見を持つことができる人材</li> <li>○ 既存の枠にとらわれない新しいアイデアを生み出しビジネスの視点で社会課題を解決することができる人材</li> <li>○ 技術革新や社会の変化に柔軟に対応できる人材</li> </ul>	

#### (1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報化の急速な進展に対応してビジネスを展開できる実践的な ICT 人材の不足</li> <li>○ 産業界や地域が求めるニーズと高校における商業教育との乖離</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 倫理観や社会的責任を持つ ICT 職業人の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報セキュリティやデジタルリテラシー教育の強化</li> <li>・ 実践的なデジタルマーケティング<sup>※1</sup>の学習</li> </ul> </li> <li>○ ビジネスに関する幅広い知識と柔軟な思考を持つゼネラリストの育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業 4 分野<sup>※2</sup>を満遍なく学習</li> <li>・ 教科等横断的な学習</li> </ul> </li> <li>○ キャリア形成に対する意識の高揚 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資格取得は通過点</li> <li>・ 身に付けた専門的知識を生かしたインターンシップの取組等</li> </ul> </li> <li>○ 探究的な学習の継続実施（「ビジネス探究プログラム（仮称）」の構築） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産学連携コーディネーターの配置や人材バンクの設置</li> <li>・ 「ビジネス基礎」での探究の初期指導</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 技術革新・産業構造の変化、グローバル化等の社会の急激な変化に伴う習得が期待される資質・能力の変化への対応の遅れ</li> </ul>	

## (2) 教員の資質向上

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員が技術革新やビジネスモデルの変化に対応するためのスキルング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学び続ける教員を支えるエコシステム（仮称）」の構築             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスに関する最新の知識や技術の習得</li> <li>・ 研修の実施、教材研究の時間や費用の確保等</li> </ul> </li> <li>○ 地域との連携を深めるコネクター力の育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・企業・行政・大学・起業家等とのネットワークの構築</li> </ul> </li> <li>○ カリキュラム・マネジメントやキャリア教育に関する意識の高揚             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他教科の教員と連携を密にした教科等横断的な取組の実施</li> <li>・ 商業の学びと自己のキャリアを結び付ける学習活動の実施</li> </ul> </li> </ul>

## (3) 施設・設備の整備

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 時代の変化や技術革新に対応した教育活動の展開に必要な施設設備が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現実のビジネス環境に即した学習環境づくりの支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高性能PCやソフトウェア等の新規整備や更新期間の短縮</li> <li>・ 実際の企業を想定した実習室の工夫             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クリエイティブツールキット<sup>※3</sup>やデジタルマーケティングを支援するアプリケーション<sup>※5</sup>、バーチャルインタレンシツプ<sup>※4</sup>やバーチャルビジネスシミュレーション<sup>※5</sup>、グローバルビジネス体験等の実施</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

※1 デジタル技術を活用し、Webサイト、SNS、広告などを通じて顧客と関係を築き、データ分析に基づいて商品やサービス販売するマーケティング手法。

※2 学習指導要領解説商業編では、商業科目をマーケティング分野、マネジメント分野、会計分野、ビジネス情報分野に分類している。

※3 動画や画像などのクリエイティブコンテンツを制作するためのソフトウェアやツール。初心者でも扱いやすい素材などが用意されており、高度な技術がなくても作成できる。

※4 オンライン上で企業での就業体験ができるプログラム。時間や場所の制約が少なく、多様な企業や職種を体験できるメリットあり、模擬業務や社員交流を通じて業界理解を深めることができる。

※5 仮想空間でビジネスの意思決定を体験できる学習ツール。リスクを抑えつつ、市場分析、戦略立案、財務管理などを通じて、実践的な経営スキルを体験することができる。

5 家庭教育の課題及び改善の方向性

目指すべき姿	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 衣食住、保育、介護などに関する知識や技術を活用して、ライフスタイルや価値観の多様化に対応できる人材。</li> <li>○ 生活産業の各分野において、地域や社会の生活の質の向上に貢献できる人材。</li> <li>○ 産業や職業に対する関心を持ち、DX化等の新しい知識や技術を生涯にわたって主体的に学び続けられる人材。</li> <li>○ 社会の状況を常に把握し、生活産業の各分野における課題を発見して適切に対応するために、新たな解決の方法を考え、多様な他者と協働しながら問題解決に取り組むことのできる人材。</li> </ul>	

(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高度化・複雑化へ対応するための土台となる知識・技術の定着</li> <li>○ 多様な課題に対応できる人材を育成するための学習の充実</li> <li>○ 生活産業の各分野の専門的な知識や技術を身に付けたり、生徒の学習意欲を高めるための学習活動の充実</li> <li>○ 多岐にわたる生活産業の最新の知識・技術やデジタル化への対応不足</li> <li>○ 高度な専門性を高めたいくための上級学校との接続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 衣食住、保育、介護などに関する知識や技術の確実な定着を図る。</li> <li>・ 共通教科「家庭」の学習内容の確実な定着。その上で、専門教科「家庭」の各科目で目指す資質・能力の育成<sup>※1</sup></li> <li>・ 「全国高等学校家庭科技術検定」等の活用を推進</li> <li>○ 問題解決的な学習の充実を図る。</li> <li>・ 科目「課題研究」等の学習内容の充実</li> <li>・ ホームプロジェクト<sup>※2</sup>や学校家庭クラブ活動<sup>※3</sup>を積極的に活用</li> <li>○ 学校は、大学や企業等との連携・交流を通じた実践的な学習活動を行う。</li> <li>・ 「実学推進フロンティア事業 未来のスペシャリスト育成」<sup>※4</sup>の更なる拡充</li> <li>・ 県内大学や企業等と教育交流に関する連携協定の締結について検討</li> <li>○ 県教育委員会は、学校が地域や産業界等と連携が取りやすい体制を整備する。</li> <li>・ 「地域交流連携センター（仮称）」の創設</li> <li>・ 「連携コーナー（仮称）」の配置</li> <li>○ DX化等の新しい知識や技術を学ぶ機会をつくる。</li> <li>・ 産業界における就業体験活動等の継続的・中長期的な実習</li> <li>・ 経験から主体性や追求力を育成し、実践力を高める</li> <li>○ 大学等への接続の在り方を検討する</li> <li>・ 高校の家庭科で身に付けた力を土台に、進学先で更にその専門性を高める</li> </ul>

## (2) 教員の資質向上

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員の専門性の向上と学び続ける機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修内容の充実及び研修機会を創出する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県総合教育センターの研修内容の充実</li> <li>・ 家庭科教育研究会※<sub>5</sub>による研究内容や進め方等の更なる充実</li> <li>・ 県外の専門高校等の先進校視察等の実施とその報告機会を創出</li> </ul> </li> <li>○ 地域、大学や企業等との連携を図るための、コーディネート力を育成する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経験年数の浅い教員への技術・技能の継承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭に関する学科においては、教員配置の工夫を図る。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各分野の指導ができる教員をバランスよく配置</li> <li>・ 経験年数に配慮した教員の配置</li> </ul> </li> </ul>

## (3) 施設・設備の整備

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 老朽化した施設や安全に実習ができる設備の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 時代に即した施設・設備の整備を図る。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭に関する学科は、産業現場との乖離をなくすための設備の新設及び安全に実習ができる施設・設備の更新・修繕等、学習環境の一層の整備</li> <li>・ 家庭科の実習助手を配置</li> <li>・ スマート専門高校で整備された実習設備（アパレルCAD実習装置設置）をさらに活用</li> </ul> </li> </ul>

- ※1 各学科に共通する教科としての家庭科（ここでは共通教科「家庭」）は、「家庭基礎」と「家庭総合」の2科目がある。主として専門学科において開設される教科「家庭」（ここでは専門教科「家庭」）は、「生活産業基礎」等21科目で構成されている
- ※2 教科の内容に係る課題を家庭生活の中から発見し、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動
- ※3 専門教科「家庭」の「課題研究」等に位置付けられた教育活動。学校や地域の生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して、グループで主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動
- ※4 高度外部人材の活用や、大学や企業等を訪問し研究体験や最新の設備での実習体験等の機会がある県教育委員会事業
- ※5 県内高等学校及び特別支援学校家庭科教員によって組織され、教科指導研修等教員研修を推進し、生徒の学業等の充実・向上を図り、高等学校及び特別支援学校家庭科教育の振興に資することを目的とした研究会

## 6 福祉教育の課題及び改善の方向性

目指すべき姿	
○ 福祉の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている人材。	
○ 福祉を通して、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担うことのできる人材。	
○ 福祉社会の一員として生活上の問題に関心を持ち、よりよい社会の構築を目指して主体的かつ協働的に取り組むことのできる人材。	
○ 福祉に携わる者として課題に向かい、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決できる人材。	
○ 少子高齢化に伴う介護DX化、グローバル化に対応できる人材。	

### (1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
○ 福祉に関する課題に、協働して解決することができず、人材を育成するための学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う人材を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な知識や技術の習得とともに福祉マインドの育成</li> </ul> </li> <li>○ 問題解決的な学習の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科目「介護総合演習」の学習内容の充実</li> <li>・ 科目「介護実習」の活用</li> </ul> </li> </ul>
○ 介護現場におけるDX化等に対応するための専門性の高い学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護ロボットやICT等の機器の特徴を理解し、効果的に活用できる力を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護DXに先進的に取り組んでいる施設や先駆的な取組をしている施設で実習や講習を受講</li> </ul> </li> </ul>
○ 進展する知識や技術に対応するための外部人材の活用や地域の福祉施設・大学等と連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校は、大学等との連携・交流を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学との高大連携に関する協定の締結について検討</li> </ul> </li> <li>○ 県教育委員会は、学校が地域や産業界等と連携が取りやすい体制を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康福祉部とともに産学官を繋ぎ、協働して対応できる体制の構築を研究</li> <li>・ 専門高校と社会福祉協議会、介護福祉士会、福祉施設、大学、企業等がそれぞれ課題を共有し解決に向けて連携</li> </ul> </li> </ul>

## (2) 教員の資質向上

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
○ 高度化する知識や技術に対応するための教員の研修機会及び内容の充実	○ 研修内容の充実及び研修機会を創出する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉施設や大学等が実施している研修会への参加</li> <li>・ 県高等学校福祉教育研究会等において外部人材を活用した講習会を実施</li> <li>・ 福祉先進国の海外視察や他県の福祉系高校等の視察の実施</li> <li>・ 福祉科教員は福祉施設で実習を行う等、リスキリングの機会を創出</li> </ul>
○ 教員の知識・技術の継承と教材の共有	○ 知識・技術の継承と福祉科教員の指導力の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣校が協力して授業を実施</li> <li>・ 遠隔授業を実施する仕組みと環境の整備</li> <li>・ 各学校の実践事例や開発した教材等を共有できるよう検討</li> </ul>
○ 福祉系高等学校における教員の確保（医療的ケア等を教授できる教員の確保等）	○ 「医療的ケア」の指導に対応できる教員※ <sub>1</sub> の確保に努める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県教育委員会は県看護協会と連携</li> <li>・ 教員採用試験において「高等学校スペシャリスト選考」※<sub>2</sub>の制度を引き続き活用</li> </ul>

## (3) 施設・設備の整備

現在の課題	改善の方向性（具現化方策）
○ 老朽化した施設や安全に実習がでる設備の整備	○ 安全・安心な実習施設の整備を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的な更新・修繕を行うための長期的な視点での財政措置が必要</li> </ul>
○ 介護現場におけるDX化に対応するための設備の整備	○ 福祉施設との設備の乖離が生じないような設備への支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業と連携し、リースやレンタルの仕組みを活用</li> <li>・ 導入した機器を学校間で共有し、効率的に活用できる体制を構築</li> </ul>

※1 医療的ケアを教授する教員は、医療的ケア教員講習会を修了し、医師、保健師、助産師又は看護師の資格を取得した後5年以上の実務経験（経過措置あり）が必要になる。教科「福祉」教員免許状を有していない場合は、教科「福祉」教員免許状所有者とのチーム・ティーチングで指導する必要がある

※2 ここでは「高等学校スペシャリスト選考」のうち、「医療機関等での勤務経験を有する者を対象とした選考」を指す

## 静岡県産業教育審議会開催計画（予定）

年度	月	審議会	専門部会
6	1	第1回 ○ 説明（諮問事項・開催計画等） ○ 承認（専門部会の設置） ○ 審議（現状と課題、前回答申具現化進捗状等）	第1回
	2		第2回 審議テーマAについての資料作成
7	4	第2回 ○ 報告（部会検討内容） ○ 審議（社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成）	
	5		第3回 審議テーマIについて資料作成
	6	第3回 ○ 報告（部会検討内容） ○ 審議（県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成）	共通部会 審議テーマIについて4部会案のまとめ
	7		第4回 審議テーマUについて資料作成
	8	第4回 ○ 報告（部会検討内容） ○ 審議1（これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備） ○ 審議2（中間まとめ(案)）	共通部会 審議テーマUについて4部会案のまとめ
	9	● 中間まとめ 「専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方」 答申（案）公表	
	11		第5回 答申（案）作成
	12	第5回 ○ 報告（部会検討内容） ○ 審議（専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方）	
	2	第6回 ○ 審議（答申） ● 答申 「専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方」	

## 静岡県産業教育審議会 専門部会委員

## 1 農業・水産

	所属・役職	氏名	備考
1	県立田方農業高等学校 校長	久保田豊和	
2	県立焼津水産高等学校 校長	沼里 智彦	
3	県立富岳館高等学校 副校長	秋山 達	
4	県立静岡農業高等学校 副校長	望月 基希	
5	県立焼津水産高等学校 教頭	西島 靖真	
6	県立小笠高等学校 教頭	望月 達彦	
7	県立天竜高等学校 教諭	柴田 康佑	
8	県立農林環境専門職大学 学生課長	久保田文美	
9	県立焼津水産高等学校 教諭	千野 和史	
10	MaOI 機構コーディネーター	岡本 一利	
11	AOI 機構コーディネーター	和田 仁	
12	株式会社鈴生 取締役社長	鈴木 貴博	
事務局	高校教育課指導第2班 教育主幹	平尾 順哉	
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主査	山下 高充	

## 2 工業

	所属・役職	氏名	備考
1	県立科学技術高等学校 校長	大澤 貢	
2	県立浜松工業高等学校 校長	野崎 真司	
3	県立掛川工業高等学校 教頭	小林 礼治	
4	県立科学技術高等学校 教諭	秋山 泰三	
5	県立伊豆総合高等学校 教諭	小谷 安孝	
6	協立電機株式会社 取締役 本部長	新井 由朗	
7	静岡県工業技術研究所 所長	鈴木 敬明	
8	中小企業団体中央会 理事	眞野 匡雄	
事務局	高校教育課指導第2班 教育主幹	山口 亮祐	
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 班長	鈴木 俊士	

## 3 商業

	所属・役職	氏名	備考
1	県立静岡商業高等学校 校長	松浦真一郎	
2	県立袋井商業高等学校 校長	花崎 昌史	
3	県立浜松商業高等学校 副校長	袴田 康行	
4	県立静岡中央高等学校 副校長	渥美 秀美	
5	県立浜松商業高等学校 教諭	木下幹比呂	
6	県立浜松商業高等学校 教諭	高橋 優子	
7	静岡鉄道株式会社 取締役執行役員	杉澤 恒	
8	静岡信用金庫 経営相談部 部長	多々良和明	
9	有限会社春華堂 専務取締役	間宮 純也	
10	税理士法人芙蓉会計事務所 代表社員	山田 知広	
事務局	高校教育課指導第2班 教育主幹	片井 伴浩	
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主査	杉山 暢啓	

#### 4 家庭・福祉

	所属・役職	氏名	備考
1	県立富士宮東高等学校 校長	鈴木 香	
2	県立藤枝西高等学校 副校長	和田めぐみ	
3	県立浜松南高等学校 副校長	向井 愛子	
4	県立御殿場高等学校 教諭	加藤 風香	
5	県立駿河総合高等学校 教諭	高木 優子	
6	県立天竜高等学校 教諭	大庭 千歳	
7	県立磐田北高等学校 教諭	鈴木 一彰	
8	社会福祉法人天竜厚生会 入所支援課 係長	石田 路治	
9	社会福祉法人駿府葬会 教育管理部 部長	齋藤 升美	
10	株式会社食の学び舎くるみ 代表取締役	中野 恭子	
事務局	高校教育課指導第2班 教育主幹	朝比奈玲子	
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主幹	福岡亜紀枝	

#### 5 共通部会

	所属・役職	氏名	備考
1	県立焼津水産高等学校 校長	沼里 智彦	農業・水産
2	県立小笠高等学校 教頭	望月 達彦	農業・水産
3	県立掛川工業高等学校 教頭	小林 礼治	工業
4	県立伊豆総合高等学校 教諭	小谷 安孝	工業
5	県立静岡中央高等学校 副校長	渥美 秀美	商業
6	県立浜松商業高等学校 教諭	木下幹比呂	商業
7	県立浜松南高等学校 副校長	向井 愛子	家庭・福祉
8	県立磐田北高等学校 教諭	鈴木 一彰	家庭・福祉
9	静岡産業大学総合研究所 所長	中山 勝	
事務局	高校教育課指導第2班 班長	向中野真記	
	高校教育課指導第2班 教育主幹	平尾 順哉	農業・水産
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主査	山下 高充	農業・水産
	高校教育課指導第2班 教育主幹	山口 亮祐	工業
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 班長	鈴木 俊士	工業
	高校教育課指導第2班 教育主幹	片井 伴浩	商業
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主査	杉山 暢啓	商業
	高校教育課指導第2班 教育主幹	朝比奈玲子	家庭・福祉
県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主幹	福岡亜紀枝	家庭・福祉	

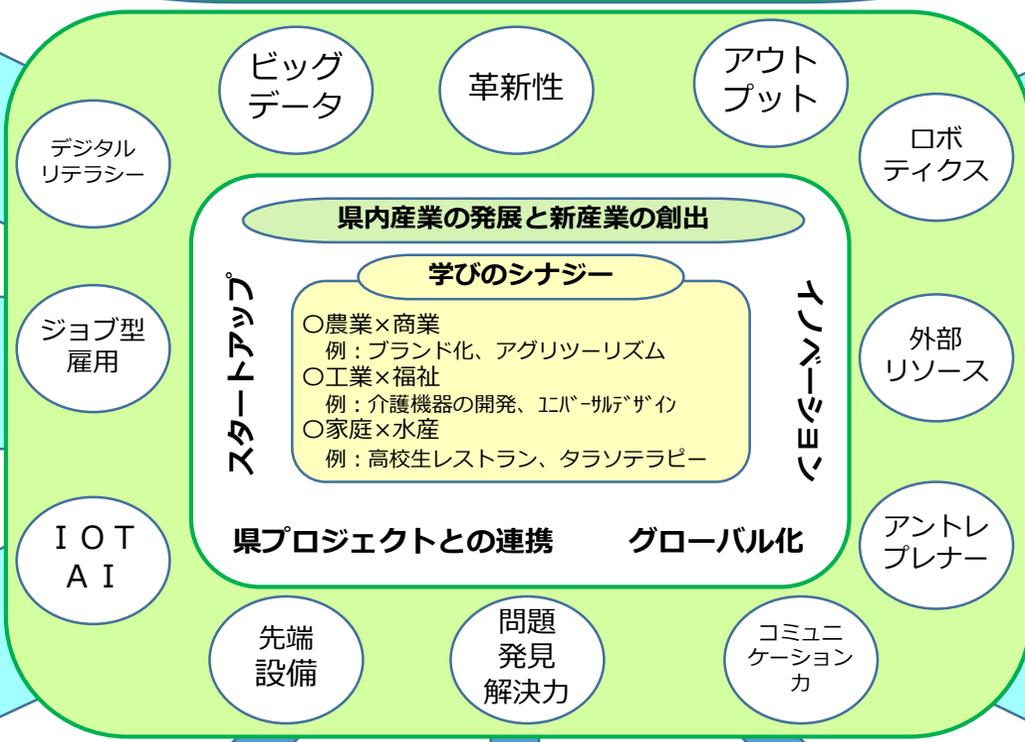
※必要に応じて、各回の審議内容に係る外部人材を招聘できる。

# 静岡県産業教育審議会

## ○専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方

- ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成
- イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成
- ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

### 未来志向の学びのキーワード



#### 農業

- ・農業ドローン
- ・栽培技術のデータ化
- ・植物工場
- ・センシング機器
- ・生産工程管理

#### 商業

- ・デジタルマーケティング
- ・ビジネス探究プログラム
- ・4分野の充実
- ・デジタルコンテンツ活用
- ・バーチャルビジネス

#### 家庭

- ・3分野の充実
- ・デジタル学習
- ・デジタルCAD
- ・生活産業のデジタル化

#### 工業

- ・ロボティクス
- ・先端技術との連携
- ・デュアルシステム
- ・STEAM教育
- ・先端機器の整備

#### 水産

- ・閉鎖循環型陸上養殖
- ・関連産業の創出
- ・海洋調査漁業
- ・技術のデータ化
- ・水産資源の保全

#### 福祉

- ・福祉マインドの育成
- ・介護ロボット
- ・介護DX
- ・介護福祉士資格

### 目指す産業教育

- 知識・技術等の高度化・複雑化への対応  
例：ロボティクス、バーチャルビジネス企業等と連携したエコシステム
- 教員の資質向上  
例：特別教諭等の配置、民間企業実習
- 施設、設備の整備  
例：実習船、植物工場、既存施設の更新

- 地域産業の継承と創造  
例：企業との共同研究、ジョブ型雇用への対応  
インターンシップ、イノベーターの育成
- 起業家精神と経営感覚の醸成  
例：アントレプレナーの育成、データサイエンス
- グローバル化への対応  
例：外国人学校との共同授業、海外インターンシップ

- オンラインを活用したハイブリット教育  
例：専門科目の他校への配信
- 多様な学びの組み合わせ  
例：農×商、工×商、普通×？
- 専門学科への夜間定時制の授業の受け入れ
- 学科のフルモデルチェンジ、マイナーチェンジ  
例：バカロレアCP、EV科、レストラン科